



2021年1月25日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 32号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. コートジのカカオ輸出業者は、供給過剰の影響を受けて、買い付け在庫を抑制(1/22)

コートジボワールのカカオ輸出業者は、供給過剰の中で、販売できない在庫を次限月へ持越し、在庫を削減するために新規購入を減さなければならず、政府のLID政策（農家の貧困を抑制するためにトン当たり400ドルのプレミアム金を必ず支払う）を非難している。

輸出業者は、リビング・インカム・ディファレンシャル(LID)の今シーズンの導入が世界的な需要減少を引き起こし、豊作の今シーズンにおいては、売れ残り在庫を積み上げ、輸出業者が事業のリスクを避けることを余儀なくされていると語った。

カカオ豆の世界生産の60%を占めるコートジボワールとガーナだけがLID政策を実施し、競合する他の生産国との比較では、この2国の価格の価格だけがかなり高くなる状況となった。昨年までであれば、通常コートジの豆は、買い付け契約時に収穫時期と輸出する期間が固定されされる。メインクroppは10-12月、1-3月に収穫され輸出され、ミッドクroppは4月から6月、7月から9月に収穫し輸出される。

今年の状況は、20年の10月-12月の間に購入されたカカオの殆どは、1-3月に輸出する契約の約80%を賄う分として輸出され、1-3月の期間に収穫された約40万トンの豆のほとんどはメインクroppの売れ残りになる可能性がある。現在、カカオ産業の規制当局であるコートジボワール、コーヒー・ココア評議会(以下、CCC)はメインクroppの売れ残り在庫を抱えたまま。港まで運ばれもせずに、生産地近くの倉庫で在留しているカカオ豆の在庫は1月末までに20万トンに達する可能性があるとも言われている。

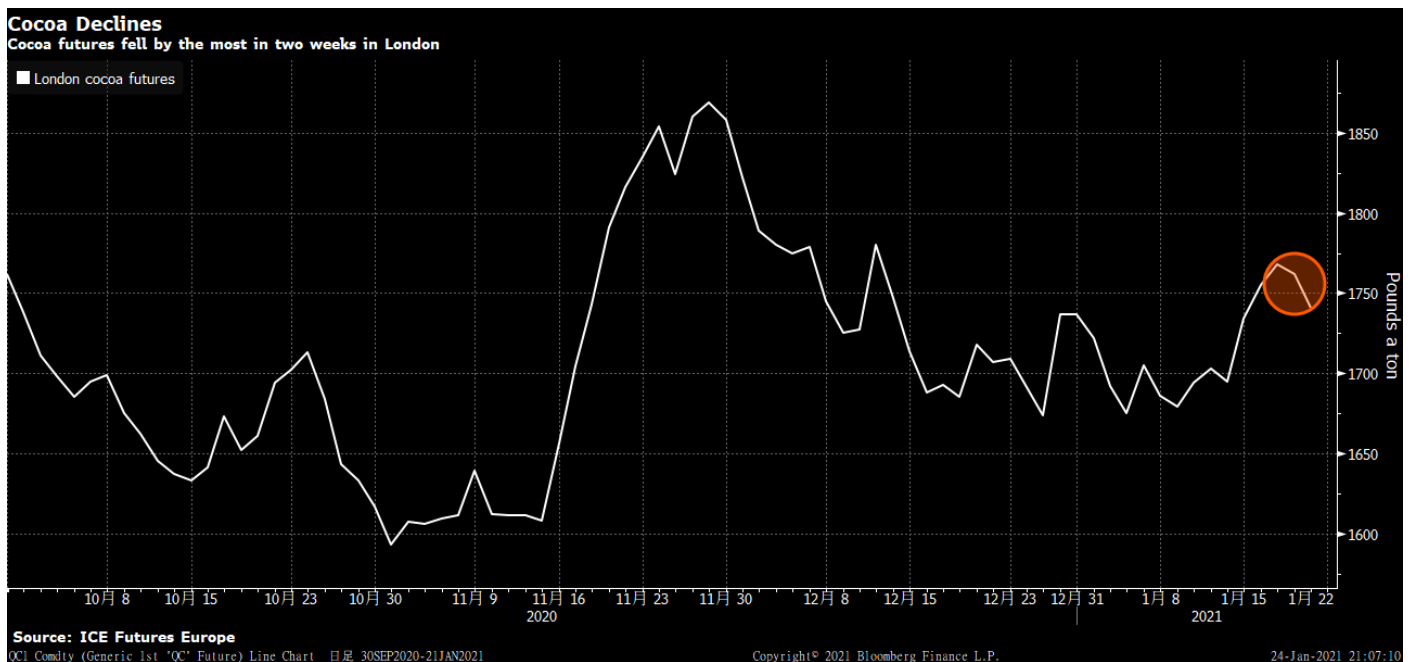
また、欧州のカカオ商社で、アビジャンに拠点を置くディレクターは、今シーズンのこの時期からの出荷数量は昨シーズンが年間数量の30-40%であったのに対して、今シーズンは同社の年間数量の70%以上を占めていると述べた。世界的な大手チョコレート会社を含む世界の買い手は、メインクroppの買い付け自体は、既に目標数量に達しており、これ必要以上に購入する必要がなく、予定がない状況。「LIDの導入により、在庫を保持することはもはや有益ではない。」「我々必要なものを買うだけ」と、ディレクターが言いました。輸出業者は、この傾向は2021/2022シーズンに続く予想しています。輸出業者のこのような決定は、すなわち、農業組合はや仲買人など生産者から直接カカオを買う役割の企業、方々が、生産者にカカオ豆の代金を支払う資金提供がされない事を意味し、現実では政府が定めた農家出荷時価格からかなり値下げをしても買い手は直ぐに見つからない状況を生み出している。

2. カカオ価格は、需要減少と在庫過多を受けて軟化傾向(1/21)

目下、ロンドン先物相場は、コートジの良好な天候による供給見通しの増加と世界的なカカオに対する需要の弱さから、ここ最近の高値ピークであった11月末から7%以上落ち込んでいる。このような背景において、先物市場で投機家筋は、純買い数量の残数を減らしており、7週間ぶりの低水準になっている。

ロンドンのR. J. オブライエン・リミテッドのソフトコモディティ担当バイスプレジデント、デビッド・カトラ一氏は『投機的トレーダーはドル安に基づいてより高い動きを求めている可能性が高いが、残念ながら彼らにとってはまだその動きは実現していないようだ』と述べた。『やはり現在の市場は、基本的な需給バランスが弱気であることを考慮して、価格上昇の動きは重いと捉えるべき』

《ロンドン先物カカオ価格：10月以降の第一限月の価格の動き》



コートジボワールとガーナ両国の思惑とカカオ豆バイヤーであるチョコレート企業の間には大きな隔たりがあり、カカオ豆の買い付けは進んでいない。チョコレート会社は、LIDと追加した、現在のカカオ豆の価格が高いと感じており、必要以上にカカオ豆を買う事を控えている。今週、ロンドンのカカオ豆相場は一時上昇したが、上値の動きは重く、3月限月は、前日比0.46%減の1733ポンド、5月限月は前日比0.47%減少の1684ポンドで終了した。

3. 欧州市場の第4四半期カカオ磨砕数量は4年ぶりの低水準に。昨年比3.1%(1/20)

欧州カカオ協会が発表した所によれば、欧州市場の20年の第4四半期のカカオ磨砕数量は前年対比3.1%減少の344,151トンとなった。

- 第4四半期の磨砕数量としては、2016年以来一番低い数量。
- 事前のアナリスト、トレーダー、ブローカーの予測数字としては前年対比1.5%以下だった為、予測よりも悪い数字。
- 2020年第3四半期の磨砕数量は345,730トンであった。
- ドイツ単体の磨砕数量は前年対比6.3%減少の92,035トンであった。

4. スイスのリンツ社、20年売上高は予想下回る 株価下落(1/20)

19日の欧州株式市場で、スイスのチョコレート大手リンツ&シュプルングリーが下落している。オンライン販売やスーパーマーケットの売上高が伸びたにもかかわらず、新型コロナウイルス流行のあおりを受けた閉店やトラベルリテールの落ち込みで20年の売上高が減少したことが響いている。

20年の売上高は40億2000万スイスフランと、既存事業ベースで6.1%減少。オンライン販売の売上高は前年比5%増となったものの、全地域で減収となった。欧州と北米を除いた地域では、海外旅行や観光が大幅に減少したことで深刻な打撃を受け、売上高は16%の落ち込みを記録した。

ただ、20年通期のEBIT（利払い・税引き前利益）マージンについては10%という見通しを維持し、21年は市場シェアの拡大を見込んでいたとした。年率5~7%という中期成長目標は修正せず、21年は約15%のEBITマージンの回復を見込んでいと述べた。

5. ファンド勢のロンドンカカオ先物の純買い越しポジションを増やし5週ぶり高水準（1/23）

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋（Managed Money）は今週、純買いポジションを3,418ロット増やし、18,847ロットとなったことが、ICE欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、（今週で言えば、1月19日）の取引が含まれている。

- 純買いポジションの最近5週間の間で最も高い水準
- 買いポジションの総量は1月19日までで、前週より2,527ロット増えて、20,796ロットとなり、最近5週で最も多い数量。
- 売りポジションの総量は1月19日までで、前週より891ロット減少して、1949ロットとなった。

6. ファンド勢のNYカカオ先物は、純買い越しポジションが増加（1/23）

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋（Managed Money）は今週、純買いポジションを333ロット増やし、26,617ロットとなったことが、ICE欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで（今週で言えば、1月19日まで）の取引が含まれている。

- 買いポジションの総量は1月19日までで、前週より532ロット増加して、48,910ロットとなった。
- 売りポジションの総量は1月19日までで、前週より199ロット増加して、22,293ロットとなった。

7. イベント：阪急百貨店チョコレート博覧会 2021

近年、百貨店のバレンタイン商戦は、東京のサロンドショコラ（文化発信型＝フランス＝王道）、名古屋の名古屋JRタカシマヤのアムールドショコラ（日本型＝販売特化型）、阪急百貨店のチョコレート博覧会（独自路線、販売&文化発信の総合型）という3大イベントが本当に努力を重ねて、大きなイベントになっていると思います。阪急百貨店（本店）は、全館を上げて、チョコレートにかける情熱が凄く、毎年沢山のイベント企画や売場の企画があります。今年もコロナの影響は当然大きくありますが、事前の告知から、開催期間中のイベントまで動画配信に力を入れ、また社員の方々が出演して大規模ながら、裏方の顔も見える手作り感のある展開となっていて、個人的にとっても共感もてる応援したくなるイベントです。

例えば、下記のような動画があり、大変面白いです。

➤ バレンタイン 2021 バイヤーの仕事拝見 地下食品売り場で販売スタート おすすめ商品

バイヤーの方が、おすすめ商品の宣伝と、オリジナル商品のフィナンシェを紹介する動画

<https://www.youtube.com/watch?v=tKs10IzhwIo&t=362s>

➤ 『カカオパーティ』オンライントーク：

男性社員のバイヤーの方が、覆面を被りカカオ・マスカラスとして、自社編集の Bean To Bar 輸入チョコの宣伝をしています。正直、キャラ設定がものすごく素人感満載なのですが、その微妙な感じが私には非常にツボです。頑張ってほしいです。

<https://www.youtube.com/watch?v=u-2b0mVsHnI&feature=youtu.be>

8. 東京産カカオによる純国産チョコレート：

既に昨年から商品化されておりますので、お聞きになっている方も多いと思いますが、平塚製菓株式会社様が取り組まれている『東京カカオプロジェクト』についての特集記事が下記の OZ MALL のオンライン記事にございました。

～史上初の東京産カカオによる純国産チョコレートを完成！10年にもわたる東京カカオプロジェクトに迫る～

<https://www.ozmall.co.jp/valentine/article/26448/>



*写真は上記 OZMALL より参照

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。